

「農」の専門部会
～調査検討経過について～

- 1 「農」の専門部会～調査検討経過について～
- 2 課題解決のための調査検討シート
- 3 麻生区内市立小学校における農業体験、食育等に関するアンケート
- 4 「体験農業」親子で米づくり資料（抜粋）
- 5 J A セレサ川崎の取り組む次世代・地域住民との交流事業

麻生区区民会議「農」の専門部会 ～調査検討経過について～

第1回部会(19.1.16)

議事

- 1 正副部会長の選出
 - ・部会長 尾中委員
 - ・副部会長 高桑委員
- 2 専門部会の名称
 - ～「農」の専門部会～
- 3 課題の絞込み
 - ～「農を通じての地域づくり」～
 - ①市民農園を通じての交流
 - ②市場、直売所を通じての交流
 - ③食育を通じての交流
- 4 課題の調査検討

課題の調査検討 その1

- ◎農業体験、食育に関するアンケートの実施
- ①対象の検討
 - ②項目の検討

課題の調査検討 その2

- ◎麻生区内において「農」を通じた「ふれあい」・「交流」事業を実施している団体からの意見聴取の実施
- ↓ [関係者として出席を依頼]
- ①体験農業・親子で米づくり実行委員会(区・協働推進事業)
 - ②こども農業体験教室(JAせれサ川崎)

第2回部会(19.2.14)

議事

- 1 課題の調査検討

課題の調査検討 その1

- ◎アンケート内容の検討
- ①対象 → 麻生区内公立小学校16校
 - ②実施時期等 → 小学校校長会に依頼
回収予定～3月末
 - ③項目 → 委員による意見交換後、部会長に委任

課題の調査検討 その2

- ◎麻生区の特徴である「農」を通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか
- ↓ [現状と課題の把握]
- ①体験農業・親子で米づくり実行委員会
・山崎実行委員長、地域振興課長
 - ②こども農業体験教室
・森 JAせれサ川崎営農課長

第3回部会(19.3.8)

議事

- 1 区民会議への部会報告について
 - (1) 提出資料
 - ①調査検討経過について
 - ②課題解決のための調査・検討シート
 - ③小学校あてアンケート
 - ④体験農業の概要(抜粋)
 - ⑤次世代・地域住民との交流事業の概要(抜粋)
 - (2) 報告者
尾中部会長
- 2 課題の調査検討

課題の調査検討 その1

- ◎アンケートの実施(資料2、P3～P7)
- ①2月27日 校長会に極力依頼
 - ②3月7日 アンケート送付
 - ③3月28日 回答期限

課題の調査検討 その2

- ◎課題
- ①土日など、子供が時間をとれない
 - ②農園への送迎ができない(親が忙しい)
 - ③参加者が集まらないというケースもある
 - ④学校の先生の負担が重い、知識・興味不足
 - ⑤リーダー、ボランティア、サポーターの不在
 - ⑥農地がない ⑦参加者の限定(親子、等)
 - ⑧閉鎖的な感がある ⑨活動資金不足
 - ⑩他の事例等の情報が不足
- ↓
資料2 P2.「3課題解決のアイデア」へ

区の課題

○課題解決のための調査検討シート ～「農」の専門部会～

1. 区の課題

課題

『心が響きあう地域づくり』
事例～地元農産物と地域の交流

課題の内容

～麻生区の特徴である「農」を通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

↓

【課題の絞込み】～19.1.16～

①市民農園を通じた交流
②市場、直売所を通じた交流
③食育を通じた交流

2. 課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

①行政の取り組み

ア かわさき「農」の新生プランに基づく施策の推進

イ 体験農業 親子で米づくり（協働推進事業）
↓ ～19.2.14～
【関係者(実行委員長)から意見聴取】

ウ 学校における農業体験、食育に関する取組
↓ ～19.3.7～
【小学校あてアンケートの送付】

②区民等の取り組み

ア 次世代・地域住民との交流事業(JA)
↓ ～19.2.14～
【関係者(JAむかし川崎)から意見聴取】

イ 直売所を通じた農産物の販売

3. 課題の解決策のアイデア

①集会場等で、農家の方から、区民が、料理（梅干、豚汁、たんあん、など）を覚えてもらう。
家庭菜園ための知識・ノウハウを覚えてもらう。
→覚えてもらった人が、さらに初めての人に教えるというような仕組みづくり（農のサポーター）

②行政が、野菜や花卉の苗・球根を配布し、区民は、その育て方などを覚えてもらう。
（柿の木の事例あり、3年で100本の苗配布ー課題・資金）

③畑で、農家から、区民が、いちご等の生産物を、一定単位（畝など）で購入できる仕組みづくり

④市等の広報誌に、児童などが地元の農家にヒアリングし、記事を作成・掲載

⑤区民の生ごみの堆肥化を促進し、その堆肥を地元農家に利用してもらう。

【学校関連】（アンケート回収後、さらにアイデア出し）

⑥「給食だより」に、農家あるいは児童が、地元農家や農産物の紹介等の記事を作成・掲載

⑦学校の花壇に、球根や農家で売れ残った花などを植えに行く。

⑧学校の花壇を畑に転用

4. 課題解決策の具体化に向けた検討

①短期的対応策

アイウ

■主な担い手と役割
○区民
○区
○市

■関係部局

■達成期間

■予算見込み額の検討

■予算確保の手法

②中・長期的対応策

アイウ

■主な担い手と役割
○区民
○区
○市

■関係部局

■達成期間

■予算見込み額の検討

■予算確保の手法

5. 課題解決により期待される効果、成果

アイウ

6. 総合計画上の位置付け

アイウ

7. 課題解決に向けた取り組み

アイウ

8. 課題解決への取組の評価、進行管理

①評価
②進行管理



麻生区内市立小学校における農業体験、 食育等に関するアンケート

(提出先 - 麻生区役所総務企画課：企画調整担当あて)

このアンケートは、麻生区区民会議の課題テーマである「心が響きあう地域づくり」の事例の一つとして取り上げた「地元農産物と地域の交流」について調査検討を進める中で、各小学校における農業体験、食育等に関する取組をお尋ねし、「農」を活用した「地域づくり」につなげていくための具体的な方策を提案することを目的として実施するものです。大変お手数をお掛けしますが御協力をお願いいたします。

今回の調査の締切りは、平成19年3月28日(水)とさせていただきます。アンケート様式は、文書及び電子メールにて送付いたしますが、できるだけ電子メールでの御回答をお願いいたします。

問1 貴校における農業教育、食育に関して具体的に取り組んでいることがあれば教えてください(なお、記入にあたっては、対象学年とその取組内容がわかれば併せて記入してください。)

- 1 教育カリキュラム、課外授業などでの取組

--

- 2 給食での取組

--

- 3 前記 1 及び 2 を除き、取り組んでいることがあれば記入してください。

問 2 学校農園の状況について教えてください。

- 1 学校農園が校内にありますか。該当する方に○をつけてください(「有」の場合は面積も併せて記入してください。)

有 (面積 約 m^2) ・ 無

- 2 学校農園が校外にありますか。該当する方に○をつけてください(「有」の場合は、面積や農園までの距離等も併せて記入してください。)

有 (面積 約 m^2) (農園までの距離 約 _____ m、農園までの移動手段 _____、時間 _____ 程度) ・ 無

- 3 学校農園が「有」とお答になった学校にお尋ねします。農園で栽培している農作物の品名について教えてください。

[農産物の品名]	[栽培場所 該当する方に○をつけてください]
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)
	(校内 ・ 校外)

問3 地域（地元農業従事者等）との連携・交流を通じて「農」に関して取り組んでいることがあれば教えてください。

- 1 地元農業従事者との連携・交流を通じた取組

--

- 2 家庭との連携・交流を通じた取組

--

- 3 その他地域住民を通じた取組

--

問4 貴校における「農業体験」や「食育活動」を今後どのように進めていきたいと考えられているか教えてください。

--

問5 学校における「農業体験」や「食育活動」を推進する上で、課題、問題となることがあれば教えてください。

--

問6 地域と連携した「農業体験」や「食育活動」を行う場合の学校からの要望や意見があれば教えてください。

- 1 行政に対する要望、意見

--

- 2 地元農業従事者に対する要望、意見

--

- 3 家庭や地域住民に対する要望、意見

--

貴校で取り組んでいる「農業体験」や「食育活動」に関する資料があれば1部御恵与ください(このアンケートの回答とは別に庁内便等で御送付いただきたいと存じます。)

資料送付の有・無について○をつけてください。

資料の送付 有 ・ 無

学校名を御記入ください。

小 学 校

担当の方のお名前を御記入ください(今後、このアンケートの件で照会させていただくことがあるかもしれませんので、よろしく願いいたします。)

先 生

[連絡方法] 電 話 _____

F A X _____

メールアドレス _____

アンケートに御協力いただき、ありがとうございました。

『体験農業』参加者募集



親子で米づくりを体験しませんか

麻生区では、田植えから収穫まで親子一緒に米づくりを体験できる『体験農業』を魅力ある区づくり推進事業として実施します。参加者を募集しますので、皆さんふるってご応募ください。

対象・人数

原則として全ての全員参加作業に参加できる、川崎市内在住の小・中学生とその親（保護者）

- ・麻生区内在住者…200人
- ・麻生区外の市内在住者… 50人

○日程については裏面を御覧ください○



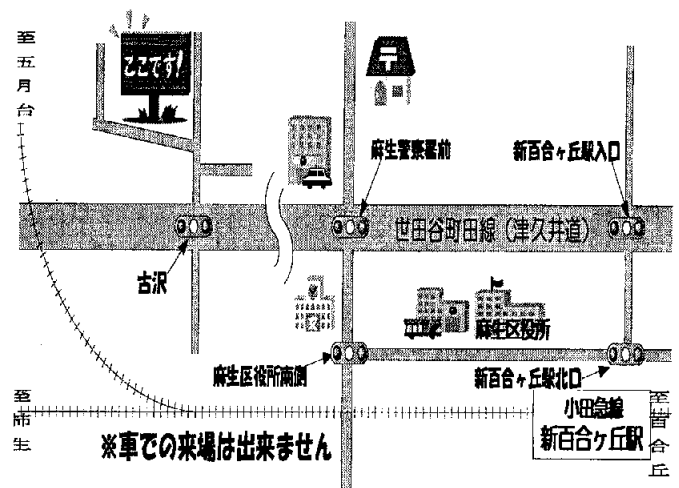
参加費

1家族1,000円（傷害保険加入代）

場所

麻生区古沢の田んぼ

（小田急線新百合ヶ丘駅から徒歩約15分）



事業紹介ホームページ（ハガキの記入例等が載っています）

<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tisin/miryoku/suishin/nogyo.htm>

☆申し込み方法（問合せ先）☆

往復ハガキに ①代表者及び参加者全員の氏名とふりがな ②小・中学生は18年4月の新学年 ③郵便番号・住所・電話番号・返信用あて名 を明記し、3月31日必着で以下のあて先まで御応募ください。

※ 1家族につき往復ハガキ1枚で申込みとなります。定員を超えた場合は抽選とし、当落に関わらず結果はハガキの発送でお知らせいたします。

※ また、代表者の方の氏名及び電話番号は、参加者の方の連絡網（作業延期の連絡等）の作成に使用しますので、あらかじめ御了承ください。

〒215-8570（住所不要）麻生区役所地域振興課内『体験農業実行委員会』

TEL: 965-5113 Fax: 965-5201 E-Mail: 73tisin@city.kawasaki.jp

○作業日程（予定）



作業には、全員参加作業と自由参加作業の二つがあります。

全員参加作業は、参加者の皆さん全員に出席していただく必要がある作業です。

	作業名	作業日（予定）	作業区分
1	種まき、網張り	4月22日（土）	自由参加
2	田起こし	5月13日（土）	自由参加（見学）
3	くろつけ（畦付け）	5月27日（土）	自由参加
4	しろかき（代掻き）	6月 3日（土）	自由参加
5	田植え	6月10日（土）	全員参加
6	草取り	7月 1日（土）	全員参加
		7月15日（土）	※全3回のうち、1回参加 （全て参加も可能）
		7月29日（土）	
7	網掛け、かかしづくり	8月19日（土）	全員参加
8	かかし祭り	9月 中旬（土）	自由参加 （当日は作業はありません）
9	稲刈り、掛け干し	9月30日（土）	全員参加
10	脱穀・もみすり	10月28日（土）	全員参加
11	収穫祭	11月26日（日）	全員参加

※この作業日は予定です。日程は天候など不測の事態により変更になる可能性があります。雨天など作業ができない場合、原則として翌日（日曜日）または翌週の土曜日に延期となり、参加者の方には連絡網でお知らせします。

JAセレサ川崎の取り組む次世代・地域住民との交流事業

1. 川崎市の農地の現状(平成17年1月1日現在)

川崎市の市域面積14,435haのうち、農地面積は693.3ha(川崎市域面積の約4.8%)あり、そのうち市街化区域内農地は511.2ha、市街化調整区域内農地は182.2haとなっています。

市外区域内の農地のうち、生産緑地地区に指定されている面積は、316.2haであり市街化区域内農地の60%を占めています。

また、市街化調整区域内のうちでは182.2haの内、麻生区で162haと大半を占め、更には農業振興地域として以下の4地区が指定されています。(岡上・黒川東・黒川上・早野)

更に、川崎市では約450箇所、74haが市民防災農地として登録されており、大地震等の災害が発生した場合に市民の一時避難場所として活用されることとなっております。

2. 川崎の農業の特色

川崎の農業の特色は消費者ニーズを敏感に捉える情報力とそれに対応した多様な営農形態であり、生産・販売が個別の農家で完結していることです。販売形態も近年では市場出荷より直売が増えてきております。

直売といっても多種多様で庭先や個人直売所、農家グループによる共同直売所があります。

こうした直売を行っている農家の割合は市内販売農家の6割近くにのぼり、農産物販売金額の割合も4割を超えています。

現在、市内で活動している直売グループも6グループ、15箇所で展開しております。

ただ、川崎区・幸区の市民は容易に地場産農産物が入手できないなどの課題もあります。

しかし、川崎市並びにJAセレサ川崎では各々で農業イベントを実施し、地産地消を推奨する立場から、市民へ地場産農産物の紹介並びに普及に努めています。

・川崎市花と緑の市民フェア	毎年 5月開催
・JAセレサ川崎花と緑の園芸まつり	毎年 5月・10月開催
・JAセレサ川崎農業まつり	毎年 11月開催
・BUY川崎キャンペーン	毎年 5月・11月開催
・畜産まつり	毎年 9月末開催
・市民フェア	毎年 11月開催

3. 今後の考え方

「食と農の学習活動」

大消費地である川崎市では消費者に近いという利点から、多くの児童・生徒が農業体験学習に参加しております。市内の生産農家では次世代を担う子供たちに「食」「農」の姿を教えており、今後益々この面での役割は大きくなっていくと思われます。

「食育教育」

JAセレサ川崎と川崎市が中心となって進めております「かわさき地産地消推進協議会」では昨今叫ばれている「食育教育」の一環として、学校給食統一献立を実施しております。

平成17年度には市内(高津区・宮前区)の32校 24,533食分のキャベツを提供しました。平成18年度についても川崎区・中原区の学校給食にキャベツを提供いたしました。

この事業については、今後も続けていきたいと思っております。

「市民との交流」

JAセレサ川崎では、平成13年度より「こども農業体験教室」を実施してまいりました。

目的:

次世代農業理解対策事業として、市内の小学生を対象にそばと野菜の播種から管理・収穫までの農作業を体験し、市民と共生する農業並びにJAバンクの理解をふかめることを目的とし開催しました。

平成13年度

会 場:古沢

募集人員:60名(小学校3年生から小学校6年生を対象)

参加者:28名

会 費:1,000円

月日	参加者	内容
8月23日	28名	そば・野菜(小松菜・カブ等)の播種
9月30日	25名	そばの花観賞・草むしり・野菜の収穫
10月28日	12名	そばの刈り取り・野菜の収穫
11月23日	22名	そばの脱穀
12月9日	22名	石臼により粉挽き・手打ちそばづくりと食事

平成14年度

会 場:古沢・野川・中原

募集人員:各会場 25名(小学校3年生から小学校6年生を対象)

参加者:古沢 29名

野川 24名

中原 30名

会 費:1,000円

月日	会場	参加者	内容
8月21日	古沢	21名	そば・野菜の種 播種
	野川	20名	
	中原	28名	
11月2日	古沢	18名	そば・野菜の収穫(カブ・大根・小松菜)
	野川	12名	
	中原	22名	
11月23日	古沢	11名	そばの脱穀・野菜収穫
	野川	14名	
	中原	20名	
12月7日	古沢	18名	石臼によるそばの粉挽き・手打ちそば打ち食事
	野川	20名	
	中原	26名	

平成15年度

会 場:古沢・野川・中原

募集人員:各会場 25名(小学校3年生から小学校6年生を対象)

参加者:古沢 35名

野川 30名

中原 34名

会 費:1,000円

月日	会場	参加者	内容
8月21日	古沢	23名	そば・野菜の種 播種(大根・白菜)
	野川	24名	
	中原	27名	
11月1日	古沢	21名	そば・野菜の収穫(大根・白菜)
	野川	24名	
	中原	20名	
11月22日	古沢	28名	そばの脱穀・野菜収穫
	野川	23名	
	中原	26名	
12月6日	古沢	33名	石臼によるそばの粉挽き・手打ちそば打ち食事
	野川	29名	
	中原	25名	

平成16年度

会 場:黒川・野川・中原

募集人員:各会場 25名(小学校3年生から小学校6年生を対象)

参加者:黒川 22名

野川 25名

中原 16名

会 費:1,000円

月日	会場	参加者	内容
8月20日	黒川	18名	そば・野菜の種 播種(大根・カブ・小松菜)
	野川	25名	
	中原	20名	
10月30日	黒川	19名	そば・野菜の収穫(カブ・大根・小松菜)
	野川	11名	
	中原	11名	
11月27日	黒川	18名	そばの脱穀・野菜収穫
	野川	19名	
	中原	14名	
12月4日	黒川	19名	石臼によるそばの粉挽き・手打ちそば打ち食事
	野川	22名	
	中原	19名	

平成17年度

会 場:野川・中原

募集人員:各会場 25名(小学校3年生から小学校6年生を対象)

参 加 者:野川 26名

中原 13名

会 費:1,000円

月日	会場	参加者	内容
8月19日	野川	22名	そば・野菜の種 播種(大根・ブロッコリー・小松菜)
	中原	10名	
11月5日	野川	21名	そば・野菜の収穫(ブロッコリー・大根・小松菜)
	中原	6名	
11月26日	野川	19名	そばの脱穀・野菜収穫
	中原	8名	
12月10日	野川	18名	石臼によるそばの粉挽き・手打ちそば打ち食事
	中原	10名	

平成18年度(夏休み親子農業体験教室)

会 場:黒川野外活動センター

募集人員:各日 30名(小学校3年生から小学校6年生を対象・保護者同伴)

会 費:1,000円

月日	地区	参加者	内容(各日 統一)
8月3日	南部東部	14名	うどん打ち 黒川散策
		9名	
8月7日	中部	7名	うどんで食事 自由時間
		6名	
8月10日	西部	9名	感想文 (土産に地場産野菜プレゼント)
		4名	

上段は子供の参加者数	計	子供30名
下段は親の参加者数		父兄19名

平成13年度から平成17年度までは現地集合

平成18年度は各集合場所へマイクロバスで送迎

「じゃがいも学校」

昭和59年より、青壮年部向丘支部の主催により始めました。

今年で23回目の開催となり、2月の上旬より募集を開始し、例年申し込み受付当日の午前中に定員となります。

場 所:宮前区初山

募集口:300口

参加費:1口(10株) 1,500円

作業日程:開校式 3月11日(予備日 18日)

中 耕 4月29日(予備日5月6日)

草むしり 6月3日

収穫祭 6月24日(予備日7月1日)